



TITLE:

人口ニ關係アル和漢ノ書籍 - 第二
、明治以後刊行ノ和書一斑 (まるさ
す生誕百五十年記念号)

AUTHOR(S):

本庄, 榮治郎

CITATION:

本庄, 榮治郎. 人口ニ關係アル和漢ノ書籍 - 第二、明治以後刊行ノ和書
一斑 (まるさす生誕百五十年記念号). 經濟論叢 1916, 2(5): 24-25

ISSUE DATE:

1916-05

URL:

<https://doi.org/10.14989/127002>

RIGHT:

第二卷 第五號

一、法學博士山口卯吉著、自由交易日本經濟論(明治十六年八月)ノ第四「產物轉換ノ光景」ノ條下ニハ人口ト食物トノ關係ヲ論セリ。コノ書ハ太陽臨時増刊「明治名著集」(四十年六月)中ニ翻刻セラレタリ。

二、ふにせつと原著、大野直輔譯、貧困救済論(明治二十年)中ニまるしうアルハまるさすノコトヲ云ヘルモノ也。

三、鶴城、梶島仁吉著、泰西經濟學者列傳(二十五年十二月一九二頁以下ニハまるさすノ傳ヲ載ス。

四、法學博士高野岩三郎著、統計學研究(大正四年五月)ニハ人口ニ關スル論說ヲモ收ム。

五、中田公直著、佐藤信淵ノ農政學說(大正四年九月)三九八頁以下ニハ信淵ノ人口論ヲ評論シ、まるさすノ所論トヲ對照セル條アリ。

六、經濟學原論又ハ經濟學史ノ著書ニシテ人口論若クハまるさすニ論及セルモノ頗ル多シ。ソノ二三ヲ示サンカ、

田島博士、最近經濟論(三十年八月)九九頁以下

金井博士、社會經濟學(三十五年九月)三八九頁以下

福田博士、經濟學講義(四十二年十月)五八三頁以下

蕭堂遺稿、經濟學(四十五年四月)二九二頁以下

小林博士、經濟學評論(大正二年十月)四七頁以下

津村博士、訂正增補國民經濟學原論(大正三年十月)一〇七頁以下

濱田健二郎、伊勢本一郎共著、經濟學史(二十七年一月)一一五頁以下

阿部虎之助譯、哲理經濟學史(二十九年十月)一五三頁以下

七、經濟政策ノ著書ニ於テモ人口問題ハ論セラル。神戸博士日本經濟政策論(四十四年十一月)一二三—一八五頁ニハ

第二、明治以後刊行ノ和書一斑

講師 本庄 榮治 郎 編

人口論ニ關係アル事項ヲ主題トセル和書ニシテ明治以後ノ出版ニ係ルモノ必スシモ多カラス。拙本教授編纂ノ前掲書目中ニモ維新以後出版ノモノヲ含メルガ、ソノ外、余ノ心付キタルモノ二三ヲ學クレハ左ノ如シ。

一、馬爾去斯原著、大島貞徳譯、人口論要略、明治十年

二、まるさす原著、三上正教解説、人口論、明治四十三年十一月

三、ういりあむ、ボークス原著、田中太郎譯、社會研究機關論

附私生兒論、三十六年五月

四、吳文聰著、戰後經營人口政策、三十八年

五、吳文聰著、戰後之出生附丙午ノ迷信、四十四年

六、矢野恒太著、日本人ノ生命ニ關スル研究、四十五年三月

七、鴨山脩治著、產兒制限論一名遊姓ノ研究、大正三年十一月

以上ノ外、經濟、統計等ニ關スル書籍及ヒ辭書等ニシテ、まるさす又ハ人口問題ヲ論セルモノハ頗ル多シ。一一之ヲ列舉スルヲ得スト雖、試ミニソノ一斑ヲ示サバ左ノ如シ、

日本ノ人口問題ヲ論シ、堀江博士、本邦經濟社會ノ重要問題(大正五年三月)ニモ人口并救貧問題ヲ論セリ。ソノ他例多シ、一一之ヲ舉グス。

八、經濟學論文集 シテ人口論若クハまるさすニ關スルモノノ收録セルモノ多シ。例ヘハ神戸博士、經濟論與政策(四十五年一月) 六六三頁以下ニハ漸まるさす主義ニ關スル論文ヲ收ム。

和田教授在職二十五年記念經濟論叢(大正三年十一月)ニハ高野博士ノ本邦人口ノ平均婚姻年齡アリ。

穂積先生演習祝賀論文集(大正四年七月) ニモ高野博士ノ本邦大部會ノ人口ヲ收ム。

福田博士、改定經濟學研究(大正四年三月)ニハ「まるさす及りかるさ研究」アリ。

九、更ニ辭書類チ一瞥スルニ、經濟大辭書第八卷(大正四年十一月)三七七二頁以下「ハ増井幸雄氏ノ「まるさす」ナル項目アリ。同第五卷(大正二年五月)ニハ二〇五五頁ヨリ二〇九三頁ニ亘リ人口ノ理論及ヒ歴史ヲ説ケリ。同第六卷(大正三年七月)ニハ八九頁ニハ小島祐馬氏ノ「東洋ノ經濟思想」アリテソノ中ニハ人口増殖ニ關スル學說ヲ舉ゲタリ。日本百科大辭典第五卷(明治四十四年十二月)九六四頁以下ニハ人口ノコトヲ説キ、まるさすノ説ヲ引用セリ。

以上ハ人口論ニ關スルモノノ一斑ナルガ、コノ外、我國維新以前ノ人口ヲ説述セルモノニシテ單行ノ冊子中ニ存スルモノヲ附記セ、左ノ如シ。

一、裁野由之、小中村義興共著、日本制度通(明治二十三年十月)卷三、戶籍ノ事ニ於テ人口ノコトヲ説ケリ。

二、勝海舟編、吹塵錄(明治二十三年一月刊)第五冊ニハ人口ノコトヲ記シ、同三十三冊以下各地方ノ部ニハ地方ノ人口ヲ説ケル條アリ

三、江戸人口小記ハ前掲吹塵錄第三十二冊ニ見ユル處ナルガ改定更籍集覽第十七冊雜類三百四十九、七八〇頁以下ニモ之ヲ收メタリ(明治三十六年)

四、大林雄也編、大日本產業事蹟(二十四年九月)第十一、雜事中ニハ本邦人口總計調査ノ事(三八三頁)、諸國享祿年度疫饑死ノ事(三八七頁)等ヲ載ス。

五、皇典講究所講演ニ掲載セラレシモノニシテ、其後、法制論纂(三十六年四月)同續編(三十七年一月)及ヒ國史論纂(三十六年六月)ニ收載セラレタルモノ、頗ル多シ。故ニ右ノ講演ニ掲ケラレタル人口關係ノ論文ニシテ法制論纂又ハ國史論纂ニ掲載セラレシモノアリ。例ヘハ裁野博士「近世ノ戶籍法」ハ法制論纂一三四七頁以下ニ、小宮山綾介氏「近代ノ人口并ニ人口ノ天時トノ關係」ハ國史論纂八

一四頁以下ニ出ツルカ如キ是レ也。

六、内田銀藏講述日本經濟史(明治三十五年)六五一〇九頁ニハ我國上古ニ於ケル人口ノ増殖ヲ詳論セリ。

七、黒川真頼全集第五(明治四十四年七月)四七四頁以下ニハ「日本人口總計考」ヲ收載ス。

八、其他一般歴史書ニモ往々ニシテ人口ノコトヲ説ケリ。今ソノ一例ヲ舉ケレハ、吉田東伍著維新史八講(明治四十三年九月)二五頁以下、井原儀著徳川時代通史(大正元年十二月)四五三頁、江戸時代史論(大正四年十月)六三九頁以下ノ如キ是レ也。

九、以上ノ外古事類苑、地部一ノ一〇一頁以下、政治部三ノ五〇二頁以下、日本社會事彙三版(四十一年十二月)下卷二二二頁以下、經濟大辭書第五卷二〇八五頁以下等ニハ何レモ我國維新以前ノ人口ヲ載ス。

以上述フル所、タゞ余ノ心付キタルママヲ記セシモノナレハ、脱漏少カラサラン。識者ノ高教ヲ俟ツ所也。